

様式

鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和6年度第1回新町小学校学校運営協議会
日時	令和6年6月25日（火曜日） 13時30分～16時10分
場所	新町小学校 プレハブ2階 会議室
出席委員	武田 和子会長、高橋 裕一委員、忍足 順子委員、 中里 由架利委員、上原 悦子委員、田邊 昭子委員、 安保 聡美委員、安野 修司委員、荒幡 光宏（新町小学校長）
欠席委員	佐藤 克則委員、萩原 基雄委員
事務局	斎藤 隆教頭、岩田 宏子教務主任、三浦 芙美代事務主幹
議題	(1) 会長選出及び会長挨拶 (2) 令和6年度の学校経営方針について (3) 学校・家庭・地域における諸課題について熟議
配布資料	資料1 新町小学校学校運営協議会員名簿 資料2 第1回新町小学校学校運営協議会次第 資料3 令和6年度学校方針について 資料4 令和6年度グランドデザイン 資料5 学校だより「明日への希望」第2・3号 資料6 令和6年6月25日（火）5校時 各学級の授業一覧 資料7 令和6年度学校要覧
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	(1) 新町小学校学校運営協議会会長の選出 指名推薦による方法で、委員から賛成を得られたため会長が選出された。 (2) 令和6年度の学校経営方針について 令和6年度学校経営方針について校長が説明し、委員からご意見をいただいた。 (3) 学校・家庭・地域における諸課題について2つのグループに分かれて熟議を行い、全体で共有した。

【議事概要】

議題1，新町小学校学校運営協議会会長の選出について

（仮議長）選出の方法について、「立候補による方法」と「指名推薦による方法」があるが、「指名推薦による方法」で良いか提案した。

（委員達）異議はなかった。

（仮議長）「指名推薦による方法」で推薦者を募ったところ、A委員からB委員の推薦があった。

（委員達）賛成を得られた。

（仮議長）B委員を新町小学校学校運営協議会の会長に決定した。

（会長）会長就任の挨拶を行った。

～ここからは、会長が議長となって協議を行った。～

議題 2, 令和 6 年度の学校経営方針について

(校長) 教育長挨拶を校長が代読

「子どもたちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が必要不可欠です。子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は時代とともに複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生等の観点からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。

社会総掛かりでの教育を実現するためには、子どもたちにどのように育ってほしいのか、そのために何を実行するのかという目標や将来像を学校と地域が共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」となることが重要です。

学校運営協議会制度は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づく制度です。「学校運営協議会」は教育委員会によって学校に設置され、その委員は、その学校、その地域の実情に合わせ、教育委員会が任命することとなっています。

つまり、学校運営協議会委員は「特別職の地方公務員」として一定の権限を有し、学校と「対等な立場」で協議を行うことが可能です。また、合議体として公式に学校や教育委員会に意見を述べることも可能です。

主な職務といたしましては、「学校教育目標及び運営方針に関すること」を協議することや「その年度の学校運営についての評価」をすることになります。

ぜひ、学校と積極的な意見交換をしていただき、新しい社会を歩むこととなる子どもたちが輝くことができる鶴ヶ島、学校を作るためにご協力くださいますよう、お願いいたします。

令和 6 年 4 月 1 日 鶴ヶ島市教育委員会教育長 松 井 克 彦

(校長) 令和 6 年度の学校経営方針について

配布資料を基に説明

(説明要旨) 学校教育目標、目指す学校像、目指す児童像、チーム新町小の合言葉、目指す教師像、本年度の重点と具体的な取組

「1 はじめに

これからの社会は、変化の激しい、先行き不透明な見通しの立ちにくい状況であり、子ども達には困難に直面した際、自ら考えて、より良い方向を探り、力強く生き抜く力が求められている。

新町小学校はピーク時 850 名いた児童が、400 名台に減少しながらも、明るく元気な子ども達が多い。しかし、友達との関わり合い、主体的な学習、自己肯定感の醸成等に課題をかかえている児童も少なくない。また、いじめ、暴力行為、不登校等の課題は減少傾向にあるが継続している。保護者は PTA 活動等協力的であるが、子どもの課題を共通理解し共通行動するためには、継続的に寄り添った連携が必要であ

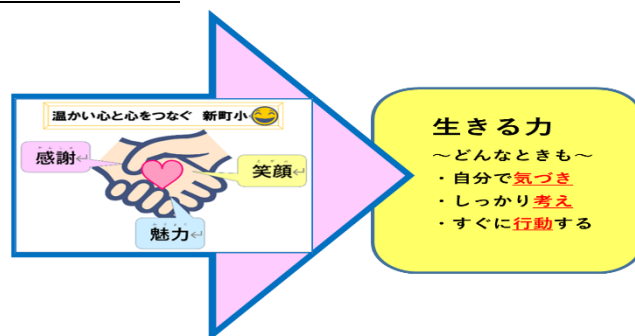
る。

学校運営協議会では、新町小学校の子ども達の実態・課題及び、育ってほしい児童の具体的な姿、それを実現するための学校教育目標を学校・家庭・地域で、常に共有し続けることが今まで以上に大切である。その上で、学校で身につけさせなければならないことについては校内研修を中心に授業改善を進めるとともに、教師の姿を手本とするよう常に意識して教育にあたる。家庭・地域で見ていかなければならないことについては目指す姿を明確にするとともに、伝わりやすく粘り強い発信を心掛け、家庭・地域も子どものよきお手本として活動してもらうよう常に意識してもらう。

★子ども達がこれからも安心・安全に過ごせるように、「地域とともにある学校」を目指していき、学校・家庭・地域と一体となって、温かい心と心をつないでいき『笑顔かがやく』魅力ある学校づくりに力を入れていく。

2 学校教育目標

かがやく自分へチャレンジ



3 目指す学校像

一人一人が輝き、笑顔と確かな学びにあふれる学校

4 目指す児童像

<知> 支え合う学習 『主体的に学ぶ かかわり合って学ぶ』

★確かな学力とは、基礎、基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力のこと

<徳> 温かい心と笑顔 『人の気持ちを考える 正しい行動』

★豊かな人間性とは、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性のこと

<体> 元気な体 『たくましく生きるための体づくり』

★健康・体力とは、たくましく生きるため、健康で過ごすことや体力をつけること
また、文部科学省は「生きる力」を身につけるための 3 つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をあげている。

5 チーム新町小の合言葉

★温かい心と心をつなぐ ⇒ 『笑顔』 『感謝』 『魅力』

『自分で気づき・しっかり考え・すぐに行動する』

★組織力 ⇒ 「効率よく・迅速に・かつ創造性高く」

6 目指す教師像

- ① 何を目指して教師になったのか（初心を忘れずに）
 - ② 協力・協働・学び合い（常に授業改善の意識を持って）
 - ③ めあての共有、共通行動、振り返り（特に、学年・学校行事の意識を高く）
- 子ども達の「良き変容」を大切に！ ⇒ 同じベクトルで行動する！
- ④ 子どもに寄り添った指導（伝わる指導・しみこむ指導）⇒ 温かい心をつなぐ！
- 教師は最大の教育環境である ⇒ 愛情いっぱい魅力的な言葉を大切に！
- ⑤ 保護者に寄り添い、課題を共有し、継続的に丁寧な教育相談
 - ⑥ ワークライフバランスのとれた勤務

7 本年度の重点と具体的な取組

- ①安心・安全で過ごせる教育環境 『学校へ行くと楽しいな！』
 - ・積極的で組織的な生徒指導・教育相談の充実（ケース会議の充実）
 - ・いじめ・不登校の未然防止（早期発見・早期対応・解消の見届け）
 - ・スクールカウンセラー・外部機関を生かした教育相談体制の充実
 - ・児童の事故防止 ⇒ 組織的な安全点検 ⇒ 「自分の命は自分で守る」意識
- ②確かな学力の育成 『わかった・できた・またやりたい！』
 - ・「授業の約束」⇒ （元気な返事・最後まで聞く力・学んだことを話す力）の徹底
 - ・「学び合い学習」を取り入れた授業改善の継続（課題→主体的な学び→まとめ→振り返り）『言葉の力と重さを実感』＜学校課題研修・小中一貫教育＞
 - ・ICT機器の効果的な活用による学びの充実（授業の工夫）
 - ・全国・埼玉県学力学習状況調査の積極的な活用による分析
 - ・主体的な家庭学習の充実（宿題・チャレンジノート・ICT活用）
- ③豊かな心と健やかな体の育成 『心と体のバランス！』
 - ・道徳・特別活動（学級経営）等による温かな心の育成（児童理解と温かい指導）
 - ・〈新町小4つの大事〉（あいさつ・返事 時間を守る 廊下歩行 そうじ）の徹底
 - ・家庭と連携した生活習慣の確立（早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち）
 - ・運動好きな子どもの育成（授業の充実→運動の生活化→体力向上）
- ④個に応じた支援の充実 『組織で丁寧な教育支援！スモールステップで！』
 - ・特別支援学級に向けた支援の充実（保護者との信頼関係づくり）
 - ・情報共有と継続した支援に向けた校内就学支援委員会の充実
 - ・チャレンジルームの活用（配慮を要する児童の個別指導・支援）
 - ・専門機関との連携（強化）
- ⑤幼・保・中との効果的な連携 『児童と教職員の温かい心と心をつなぐ！』
 - ・効果的・効率的・継続的な幼保小中連携の充実

⑥魅力的で開かれた学校づくり 『笑顔輝く学校づくり！』

- ・学校運営協議会の充実を図り、「地域とともにある学校」の更なる推進
- ・計画的・意図的な情報発信と情報収集（学校便り・学年便り）

⑦学校教育力向上のための働き方改革の推進 『自分と家族を大切に！』

- ・各担当におけるスクラップアンドビルドの推進
- ・水曜ノー残業デーとふれあいデーの徹底（超過勤務月45時間未満）
- ・計画的な年休取得（年間目標10日）

⑧教職員事故ゼロの継続 『新町小学校で一緒に働けて幸せ！』

- ・教育公務員としての自覚
- ・自分事としてとらえ、互いに声をかけあう風通しの良い職場」

（委員）自転車に乗る時間というのは、学校教育を離れた時間である。気になるのは両手を離して乗っている子どもがいる。自転車に目的を持って乗るということも大事である。新町二丁目から中新田、学校の周りを一周して遊んでいる子など、遊びで乗っている。家庭の躰になるかと思うが、そういうことが気になる。交通量は少ないが心配である。

（校長）避難訓練の際にお話しさせていただく。

（委員）学校経営方針については、保護者に配っているのか。暴力行為とあえて文字を入れているのはどういうことか？

（校長）学校経営方針は4月当初に全教職員に配布し説明している。グランドデザインは、4月の保護者会で配布し、担任から説明している。具体的な暴力行為とは、友達同士のトラブルにおいて感情のコントロールができずに相手の気持ちを想像できない状況で、イラッとして相手を殴ったり、蹴ったりする、そういう行為を暴力行為と捉えている。

（委員）地域と一体となってというお話があったが、地域に望む教育は何か？

（校長）挨拶を学校から、地域へ盛り上げていきたい。

（委員）中学生がよい挨拶をしている。小さい頃から地域で声がけをするのが大切。地域の方が見てみぬふりではなく、普通の声がけをできるのがよい。子どもたちに声がけができる地域になってほしい。大きな災害のときに身近な中学生と地域みなさんが交流を深めておく必要がある。その前段階として小学生のうちから声がけが大切だと思う。

（会長）私は駅の周りに住んでいる。早朝でも皆さん挨拶してくださる。ずっと学校応援団で協

力してくださっている方もいる。地元で育っている子達なので長い年月を見ているが、立ち止まってでも挨拶をしてくださる。保護者の方の声かけもあると思う。一人でも多くそういう人が保護者の中にいてくれたらいい。

議題3，学校・地域で起こりうる諸問題の未然防止に向けて子どもたちにルールやマナーを身に付けさせていく方法

10分ほどグループで意見交換

(グループ1) 子どもは大人の姿をよく見ている。廊下を走っちゃいけないよとか危険なやり方しないでねとか子どもたちに注意を促すときに、ママもそういう風にしてたじゃないとか先生も廊下を走ってたとか、そういう風に言われてしまうとあって思ってしまう。そういうことも多々あると思うので やっぱ大人自身も 態度で示していかねばいけない。そういうところから子どもとの人間関係を作っていくことがすごく大事なのではないかな。今はスマホやパソコンだのという機械に支配されているような世の中にちょっとようになってきているので、どうしても生身での人間関係を作ることがすごく難しくなっている。昔の大先輩たちの頃の子育ての時は習い事をやるにしても大きな組織で人間関係を作っていてそこで応援しあったりしていた。その中で人間関係がどんどん深くなるので、自分の子育ての悩みを相談していたという思い出も教えてくださった。今はそういうことが、 すごく薄れていると感じる。この地域の関わりをもっと深めていかないといけない、課題が深いと思う。でも人間関係が作れないにしてもやはりこういう地域の人たちの協力を得て、大人たちから子どもに手を差し伸べる、悪いことをしていたら 本当に真剣に叱ってくれる人が今いないと思うので、心の底から自分たちのことを叱ってくれているという愛情を示すのはやっぱり大人である。その地域交流をするにはどうしたらいいのかというのがこの先の多分課題だと思う。やってみました、だけどこうだったとか、そういう意見交換をまた皆さんでしながら、諦めずにやっぱりいい新町にしていきたいと思う。

(教頭) 昔の良い組織体で子供たちの育成に関わっていく。これからの組織体としてはやはり 地域も出たと思う 。そのやり方については これから 具体的な案が出てくるといいなというご意見だった。どうもありがとうございました。

(グループ2) まずは子供との関係性づくりがすごく大切だと思う。西市民センター に来る子供たちでも最初は全然言うことを聞かない子どもたちがいたが、子どもたちがやっていることにこちらも一緒に共感して、それ楽しそうで いいね とかゲームは自分もやってるよ と話すことがたまたまあった。 親しくなり、関係性がある程度できてきたので、前は言うことをあまり聞かなかったが「もう時間だから帰ろうね」 と言うとだいたいすぐ帰るようになった。やはりいかに多くコミュニケーション

ンをとれるかがすごく重要になってくると思う。コミュニケーションが取れない中で怒ったりしても多分反発されちゃうと思うので、なかなか言うことを聞いてくれないと思う。やはり関係性ができた中で怒るのではなく促すというか、「ゴミはそこに捨ててね、助かったよ」とかそういう風に言ってあげると子ども達も次から捨てようという気持ちになってくれるのではないかなと思う。自分で捨てようと思っていっても楽しいことをやったらいつも忘れちゃってすぐそのまま帰っちゃうという子たちもいる。そういう子たちの場合は、例えばそのグループの中でそういうことができる子たちが声かけをして「私、捨てるね」とか、捨ててもらった子は「ありがとうね」と言えるような関係性ができたらいいのではないかという意見もあった。また、ゴミ箱を今あまり目立たないところに置いているが、子どもたちがいる間だけでももっと目立つところに置いて場所を知ってもらえればみんなそこに入れるのではないかという意見もあった。

(教頭) 信頼関係があれば苦い言葉も少しは入っていくのではないかという話だったかなと思う。 コミュニケーションを重ねて、信頼関係ができ、間柄が良くなったとしてもなかなか入っていかない子もいるのがやはり現状かなと思う。 私たちもそういったところですごく悩んでいたところである。その中で、グループの中で通じる子に伝えてそこから浸透させるというご意見があったかなと思う。 そういったことも一つの手かなと私たちも勉強になった。ありがとうございました。